

法減び及法加

二、減法

算術科 (第五學年前期) 一八四
 (一) 里程の減法 各單位を別々に減くべし。若しそのまゝにて減かれざる時は上の位より減きさげで引くべし。
 (二) 例解。次の減法を見てさとりべし。

25里(-1)	30里(+36)	57里(-1)	4里(+6里)
7	34	40	5
17	32	16	5
答 十七里三十二町十六間五尺			

尋常
 小學
 珠算科表解

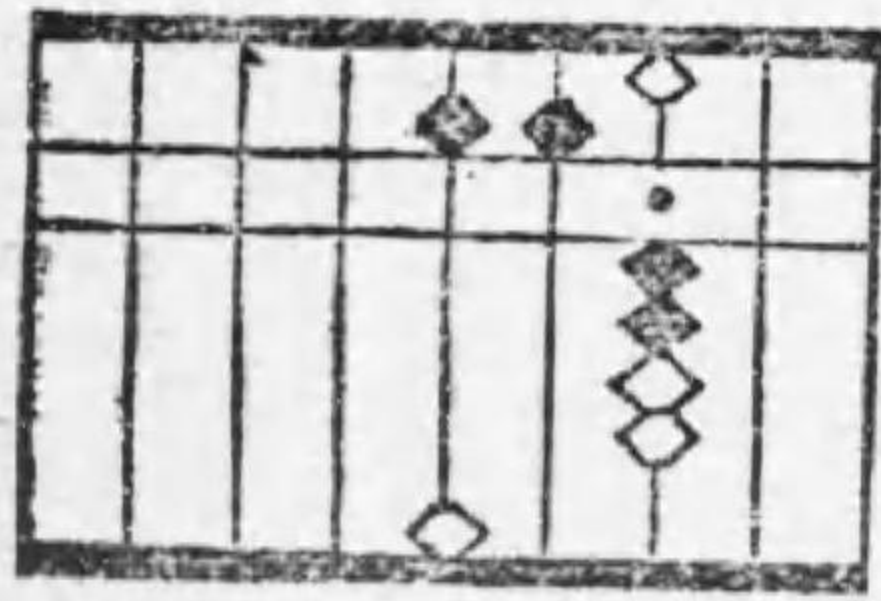
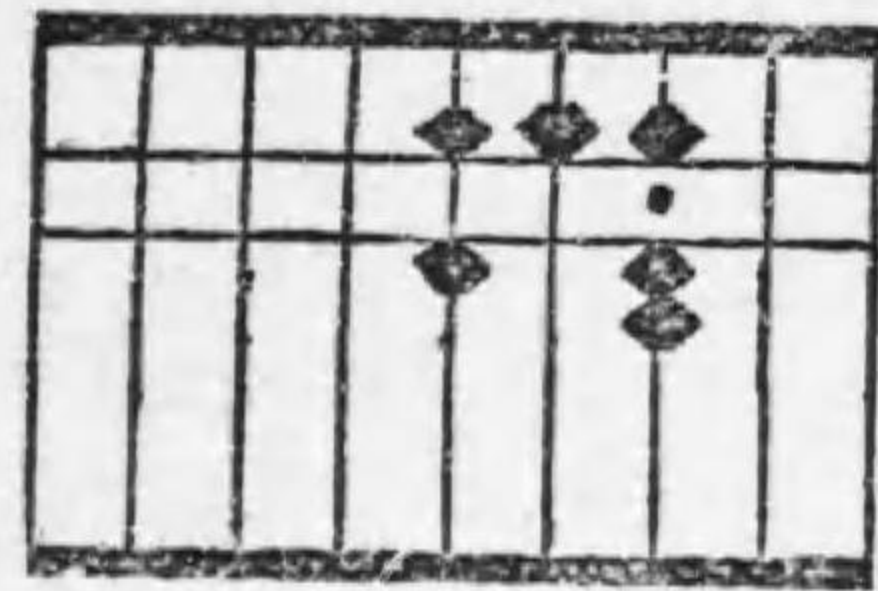
第五學年前期

法減び及法加

三、減法

珠算科 (第五學年前期)

(1) $6尺5寸7分 - 1尺0寸3分$



尺の位のひき方は、れまで學ぶ
 たるものと同じ。
 分の位に於ては、3をひくは、
 2を加へて5をひくとひとし。
 故、下の圖の如くすべし。
 答、五尺五寸四分

二、加法

右の加へ算に於ては、左のことをよくあんきすべし。

4を加へるは、5を加へて、1ひくにひとし。

3を加へるは、5を加へて、2をひくにひとし。

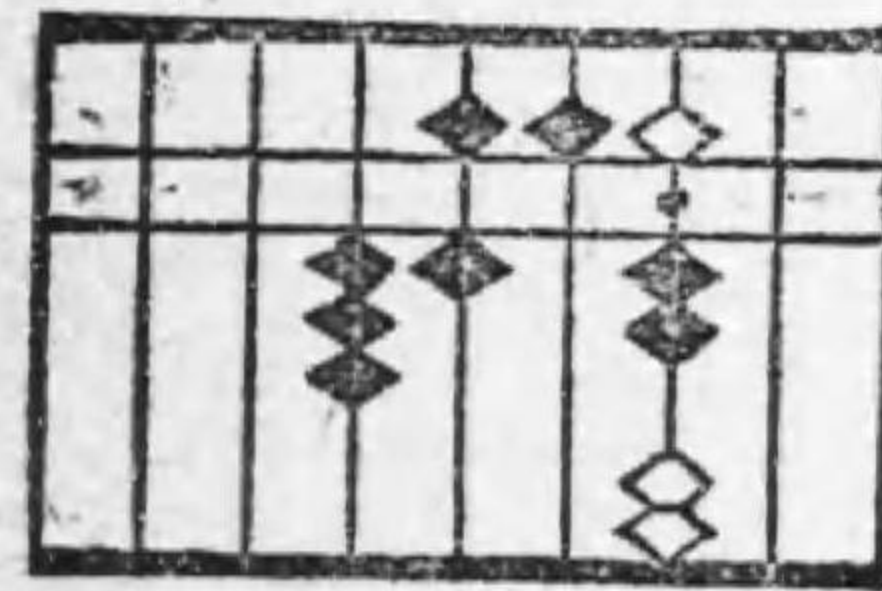
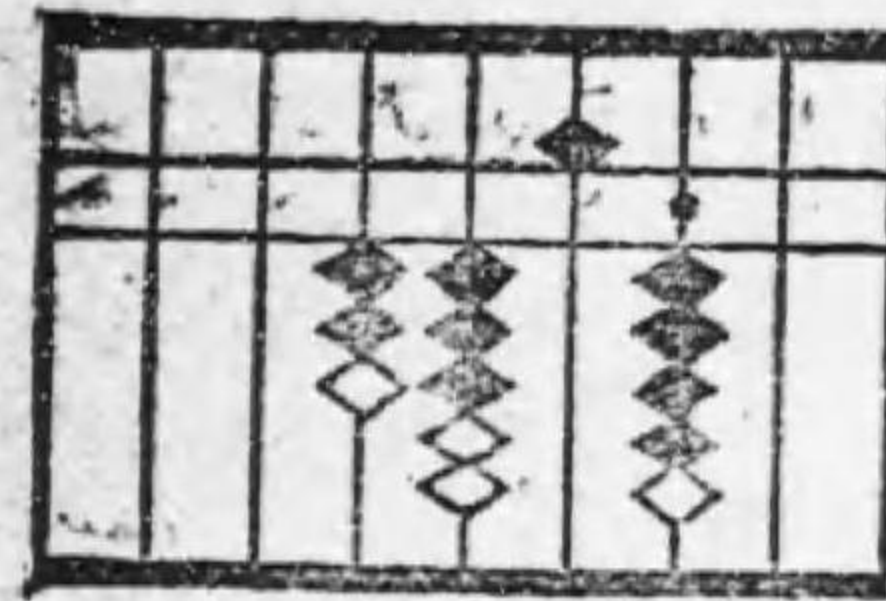
2を加へるは、5を加へて、3をひくにひとし。

法減び及法加

一、加法

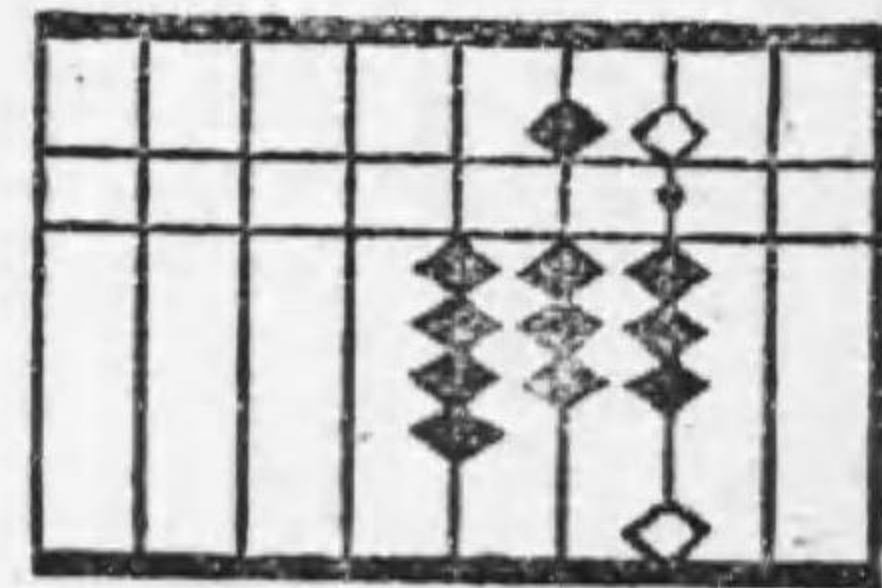
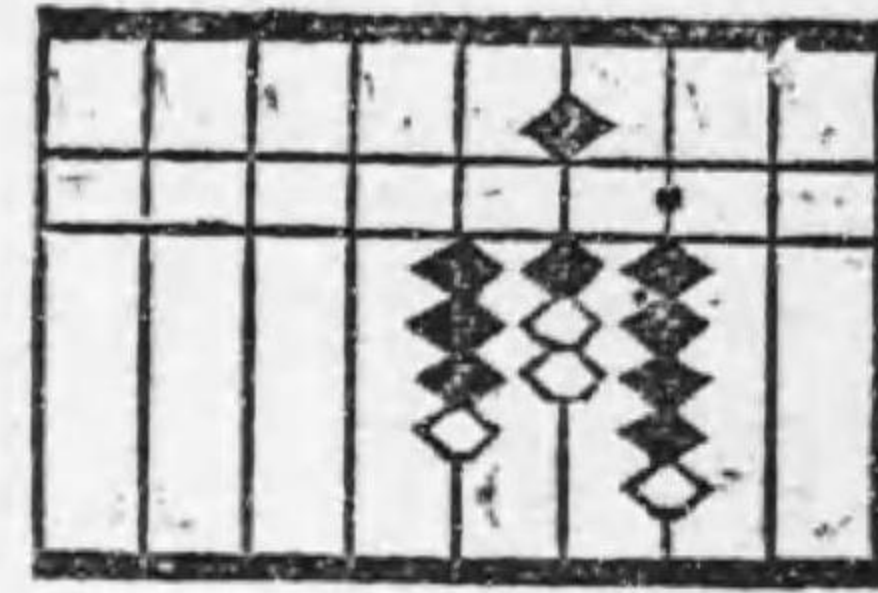
珠算科 (第五學年前期)

(2) $2354匹 + 1303匹$



百の位は3加へる3は6なる
 故、圖の如く6と置き、一の位
 は4加へる3は7なる故、圖の
 如く7と置くべし。
 答、三千六百五十七匹

(1) $354枚 + 124枚$



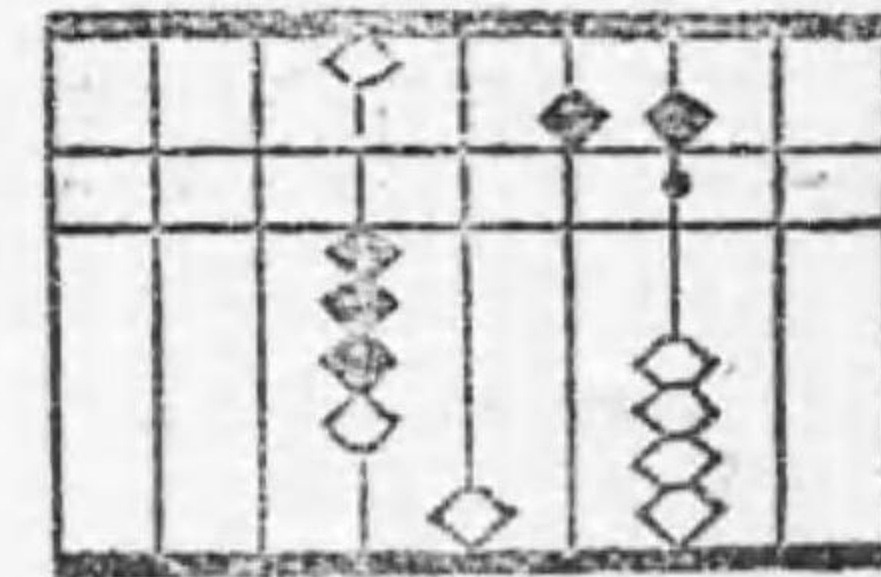
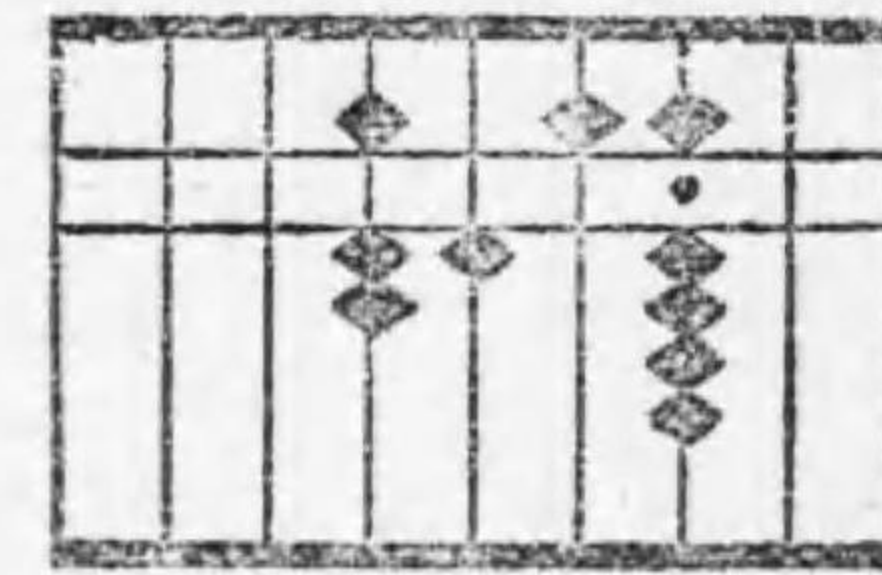
百の位と、十の位の加へ方は、
 前に學びたると同じ。
 一の位に於ては、4加へる4は
 8なり、故に五珠を一箇おろし、
 一のたまを一箇とりて、下圖の
 如くすべし。
 答、四百八十八枚

法減び及法加

四、引き方

珠算科 (第五學年前期)

(2) 7159^貫 - 1404^貫



千の位に於ては、4をひくは、1を加へて5をひくに等しき故、下の圖の如くし、百の位と貫の位とは、前の如くしてひく。

答 四千五十五貫

右の如き加へ算に於ては、左のことをよくあんきすべし。

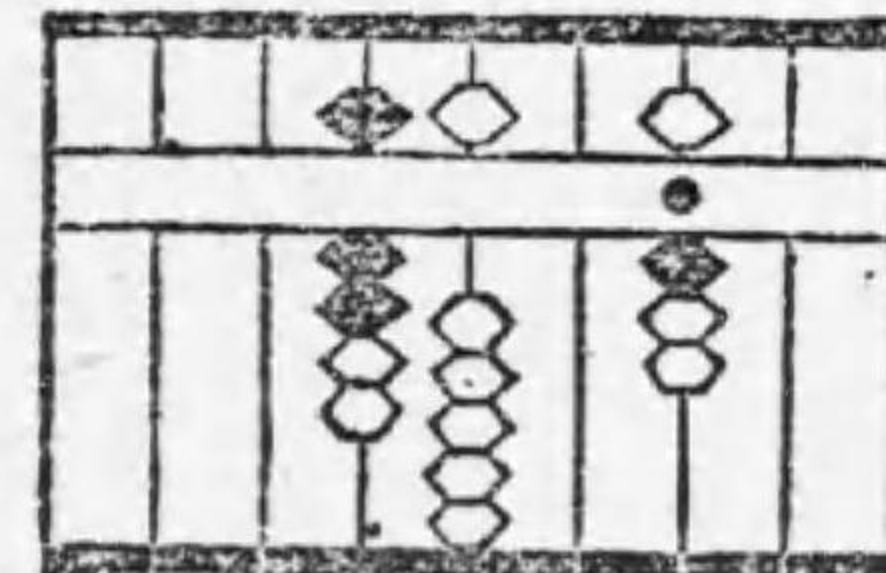
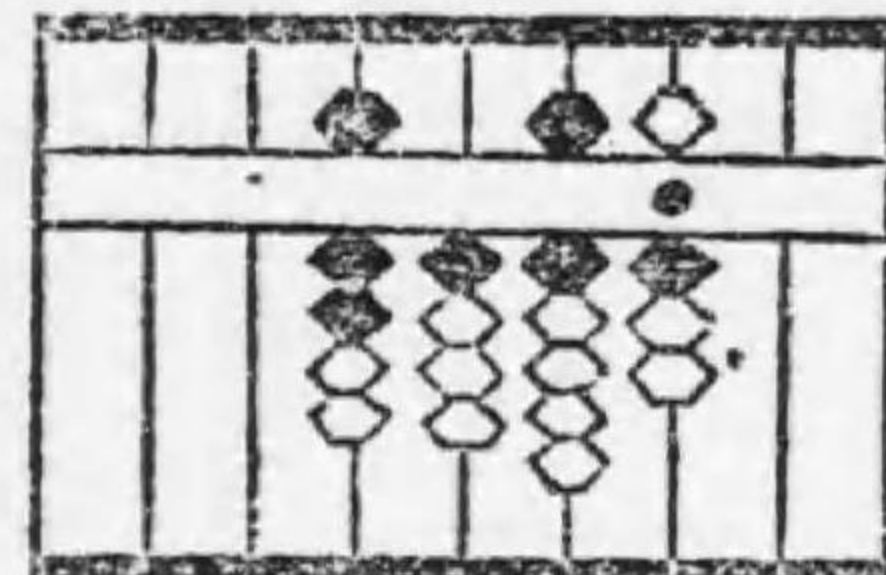
- 4をひくは、1を加へ、5をひくにひとし。
- 3をひくは、2を加へ、5をひくにひとし。
- 2をひくは、3を加へ、5をひくにひとし。

法減び及法加

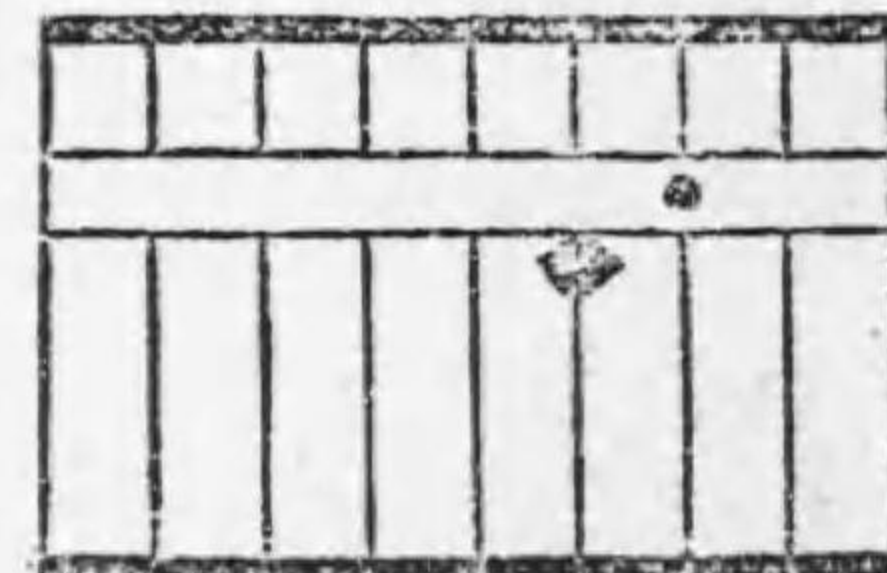
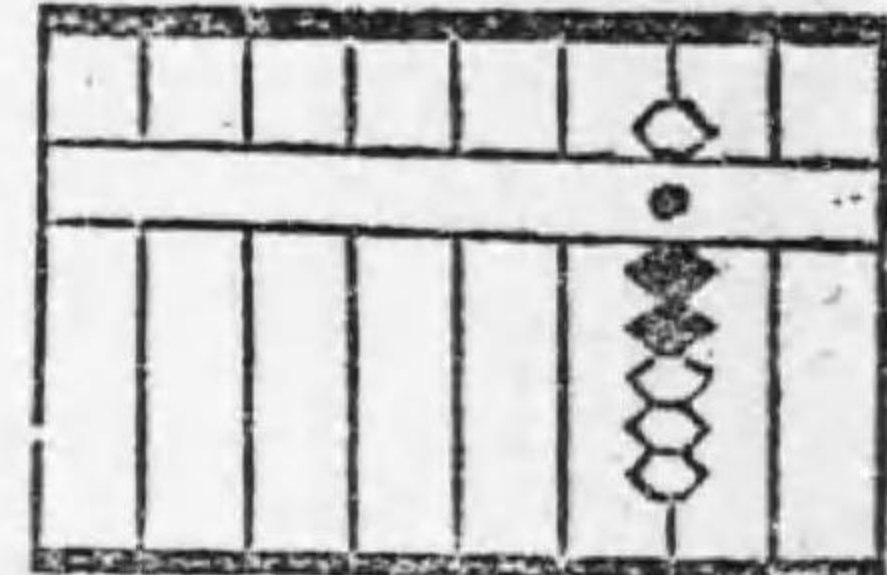
五、加

法

(2) 7161 + 2347



(1) 2 + 8



2に8を加ふれば、上圖の如くなる故これを皆はらつて、下圖の如く、十の位に珠を一つ置くべし。但し、2加へる8は10なる故、直に2をはらつて、十の位に一を置くやうにするをよしとす。千の位と、百の位と一の位とは、前とおなじ。十の位は、6に4を加ふれば、10にて上圖の如くなる故、直ちに6をはらつて、下圖の如く百の位に1を加ふれば5となるを以て、またこれをはらひ、その代りとして、五珠を一つ置くべし。

答 九千五百〇八

珠算科 (第五學年前期)

法減び及法加

六、加
る十へ
もとて
のな

珠算科 (第五學年前期)

(3) 7628 + 1412

左の結果をよくあんとすべし。

- 1 + 9 = 10
- 2 + 8 = 10
- 3 + 7 = 10
- 4 + 6 = 10
- 5 + 5 = 10
- 9 + 1 = 10
- 8 + 2 = 10
- 7 + 3 = 10
- 6 + 4 = 10

十圓の位と、錢の位の加へ方は前と同じ。
圓の位は6に4を加ふれば10となる故、
直にこれをはらつて、十圓の位に珠を一
箇置くべし。
錢の位の加へ方もまた、これにおなじ。
答 九十圓四十錢

法減び及法加

七、減
法

珠算科 (第五學年前期)

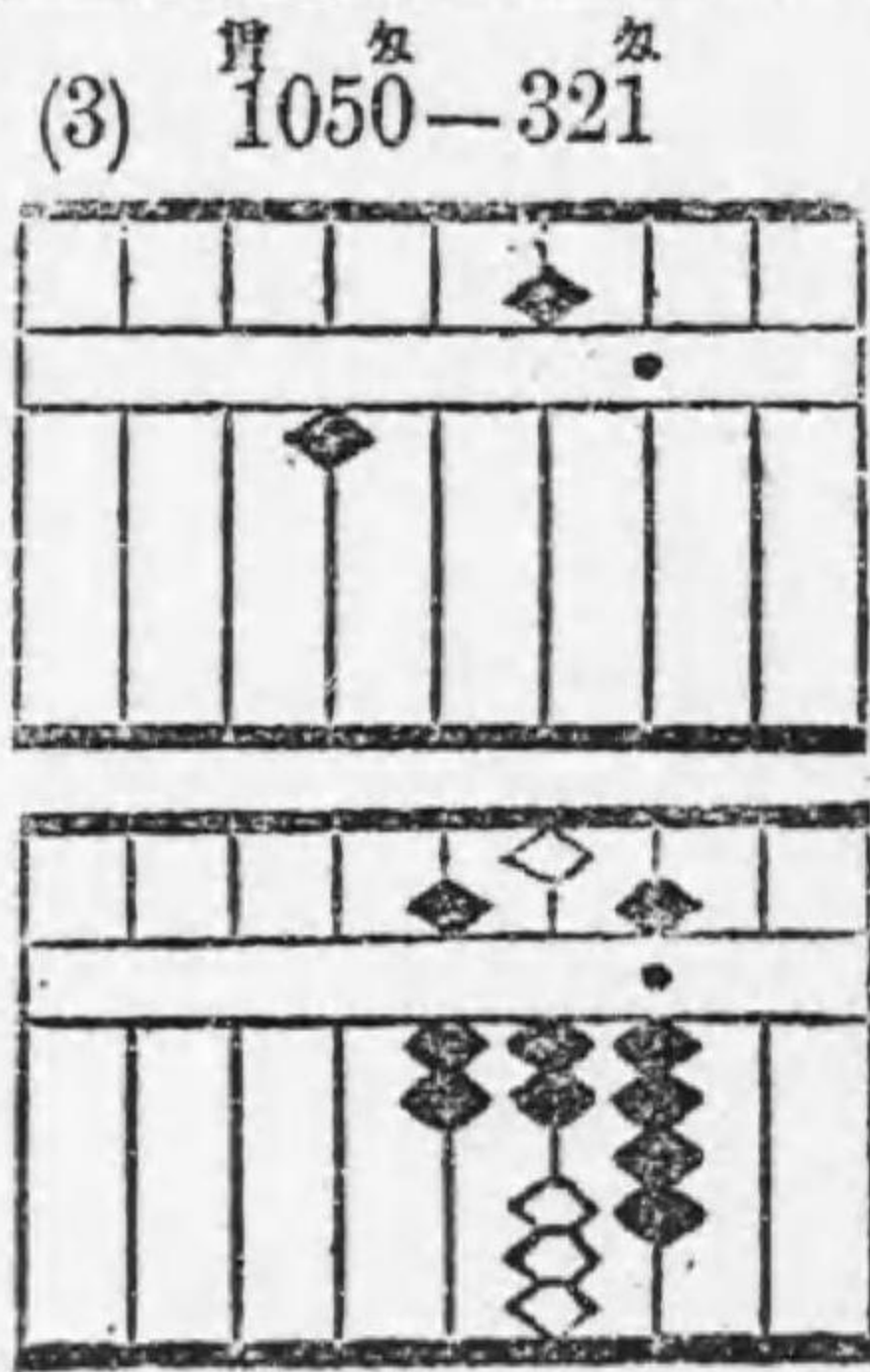
(3) 804 - 352

(1) 10 - 4

十の位の珠をはらつて、一の位に、十を
置き、それより4をひきて、下圖の如く
すべし。
但し、10より4をひけば6なる故、直ち
に十のたまをはらつて、一の位に6を置
くやうにする方、もつともよし。
先づ百の位の8より3を減すれば5のこ
る。次に十の位に於ては5を減するもの
なきを以て、百の位の珠一箇をはらつて
十とし、一の位のひき方は、これまでのと
おなじ。
答 四百五十二

法減び及法加

珠算科 (第五學年前期)



百の位の珠一箇はらつて、 $1000 - 1000 = 0$ を減するものなき故、貫の位の珠一箇はらつて、 $1000 - 1000 = 0$ なるを以て、百の位に7を置く。
 十の位のひきは、これ迄とおなじ。
 一の位は、十の位の珠を一箇はらつて、 $1000 - 1000 = 0$ なるを以て、9を置くべし。
 一九二
 答 七百二十九

八、十の引き算

- 左の結果を、きおくすべし。
- | | |
|--------------|--------------|
| $10 - 1 = 9$ | $10 - 2 = 8$ |
| $10 - 3 = 7$ | $10 - 4 = 6$ |
| $10 - 5 = 5$ | $10 - 6 = 4$ |
| $10 - 7 = 3$ | $10 - 8 = 2$ |
| $10 - 9 = 1$ | |

尋常小學 圖畫科表解

第五學年前期

圖畫科

一、**圖畫の効用**
 圖畫は文字にうつすことを得ざるものを、よく書きあらはし、又言葉の通せざるものにも此によりて話すことを得。廣告や、かんばんなどに用ふるは此の理なり。
 美術。工藝のもとにして家をたつるにも器械をつくるにも圖畫をもとす。
 圖畫はこれを學ぶ人を高尚ならしむ。
 隨意畫—自分の考へを自由に描くことをいふ。
 臨畫—手本について描くこと。
 寫生畫—實物をもつてうつすこと、物の位置形状を見たるまゝ描くこと。
 看取畫—略畫によりて物體の要點を速に描くこと五分以内の時間を限る。
 記憶畫—いつか見た景色を思ひ起してかくこと。
 考案畫—手本なしに自分にていろいろ工夫して描くことをいふ。

二、**圖畫の種類**
 寫生畫—實物をもつてうつすこと、物の位置形状を見たるまゝ描くこと。
 看取畫—略畫によりて物體の要點を速に描くこと五分以内の時間を限る。
 記憶畫—いつか見た景色を思ひ起してかくこと。
 考案畫—手本なしに自分にていろいろ工夫して描くことをいふ。

三、**描寫の要點**
 精神法
 位置 形態 遠近 運筆 直線 曲線
 描かんとするものの性質・状態などをあらはすこと、………輕きものは輕く、堅きものは堅く見ゆるように線を使ひ分けること。
 物を描くには位置に注意せざるべからず、即ち描かんとするものと紙の上下左右の釣合によく注意すべし。
 物をうつすには其の形に注意するを要す、例へば四角なものは正しく四角に、梅の花は梅の花に、櫻は櫻に正しく描くよう注意すべし。
 近きものは大きく、遠きものは小さく見ゆることを忘るべからず。
 鐵道線路も遠くなるに従つて遂に一點に合するを見る。
 勢よき所は勢よく細き線は細く書き、筆づかひ自由なるべし。
 水平線………横にまつすぐな線、垂直線………たてにまつすぐな線。
 斜線………ななめにまつすぐな線。
 單曲線………一度まがつた線。複曲線二度以上曲つた線くく。
 弧線………丸の線の一部。

圖畫科 (第五學年前期) 九六
並行線 直線でも曲線でも二本以上の線がいくら引のばしても交はらぬ線をい

用紙 毛筆畫には畫用紙又はドーサ引の日本紙をよしとす。

五、用具

筆 毛筆畫には始めは眞書筆を用ひ進んでは水筆を用ふべし。

消ゴム 鉛筆畫にありては中硬HB位のもの一本にて足れり。

六、練習

下書 下書は鉛筆をこくかるく用ひて大體の線より描き次第に細かなる所に及ぶべし、又一つのものが他の物のかげにかくるゝとも其の全部を描き

注 十分位置を定め後にいらざる線は消すべし。

清書 とす毛筆ならば墨のかはきたる後下書の鉛筆の線を消しとるべし。

七、毛筆

例一 先づ第一圖によりて大體の形を定め然る後第二圖第三圖の順に従ひて仕上ぐ

八、毛筆

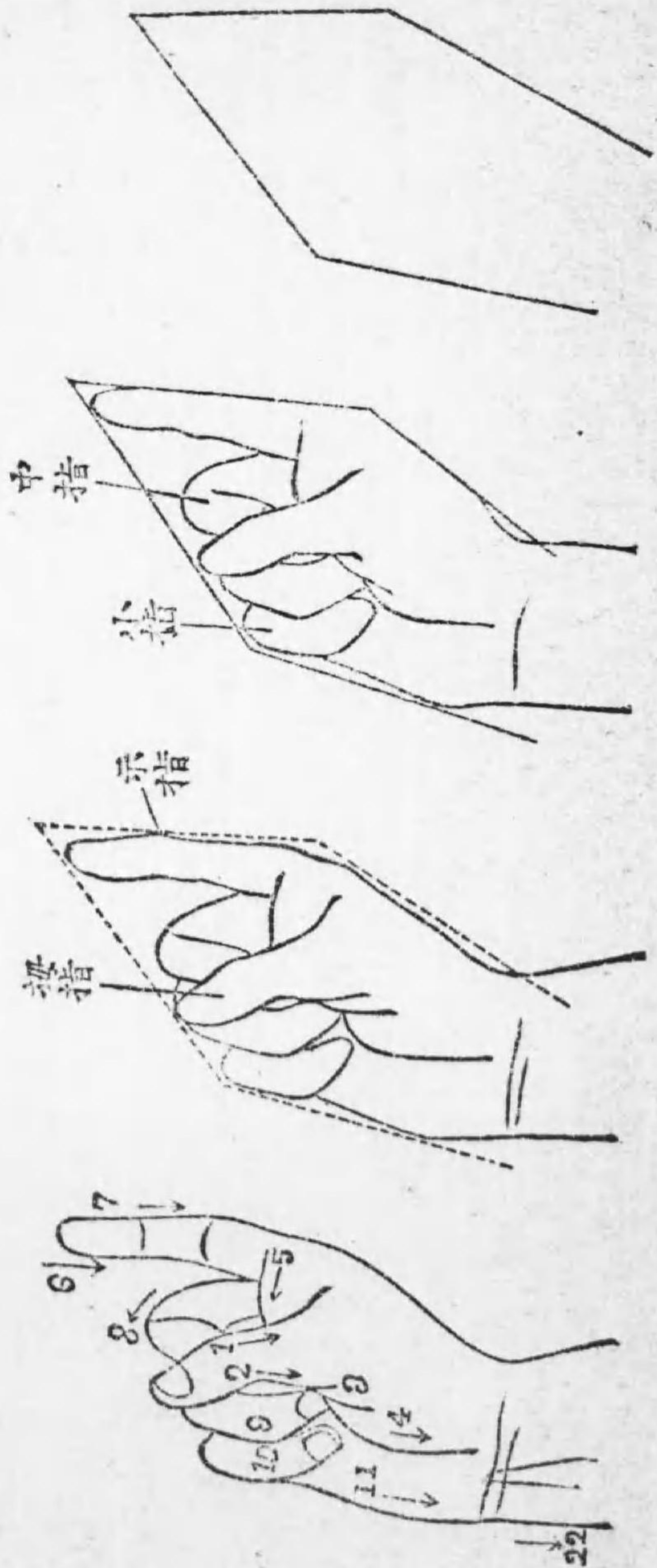
例二 手の部分の位置、大小、長短等の割合に注意し 輪廓の際には示指より始め中

九、鉛筆

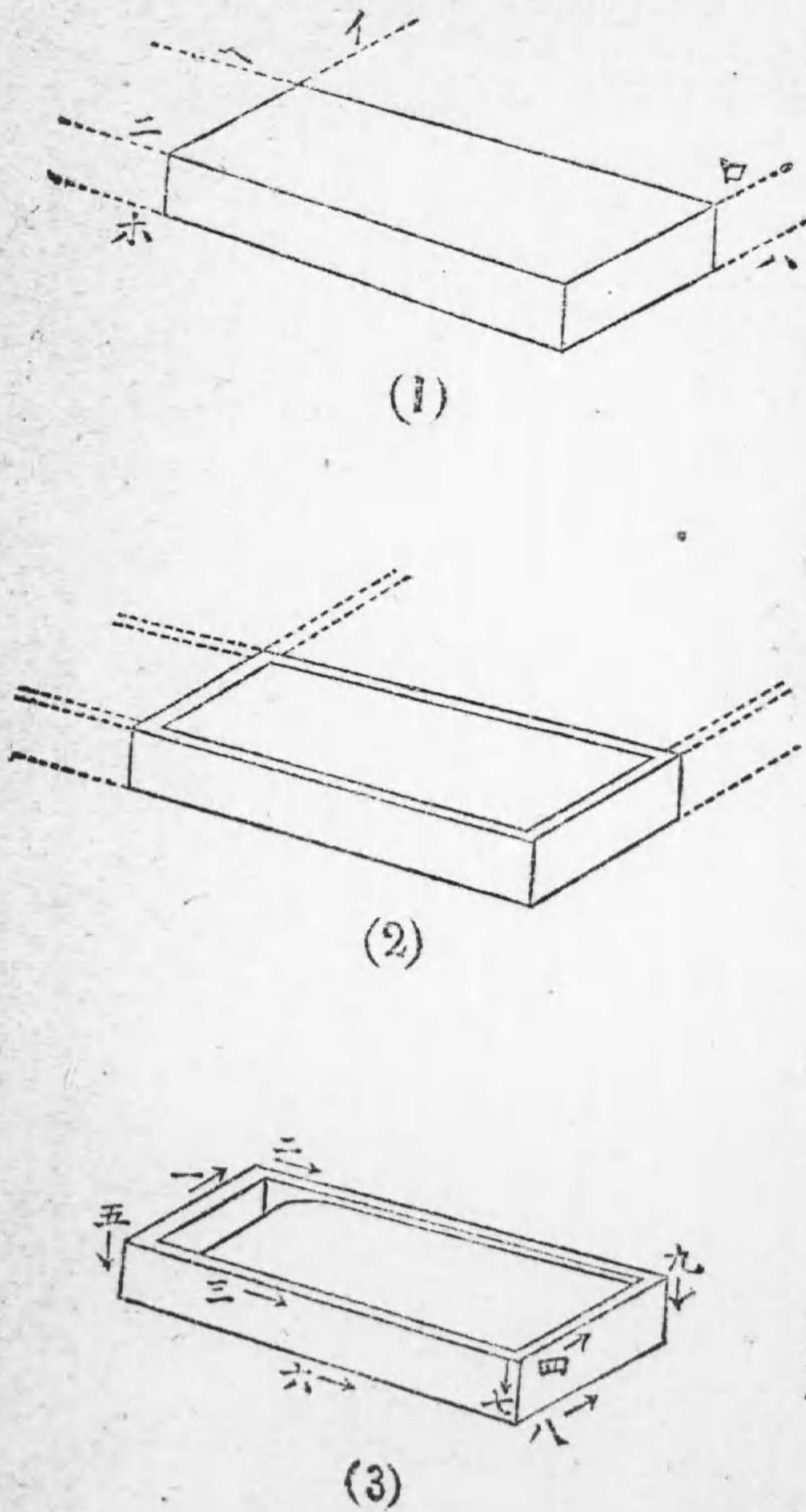
例一 此の圖に於て特に注意すべきは (イ) の丸みと (ロ) の丸みとの工合なり (ロ) は (イ) よりも下にあるによりて (イ) より多く丸みを持つ。

又 (イ) 圖に於て 1, 2, 3, 4 とは 2, 3, 4 とよりもせまく見ゆることに注意すべし。

例一の畫筆毛 八



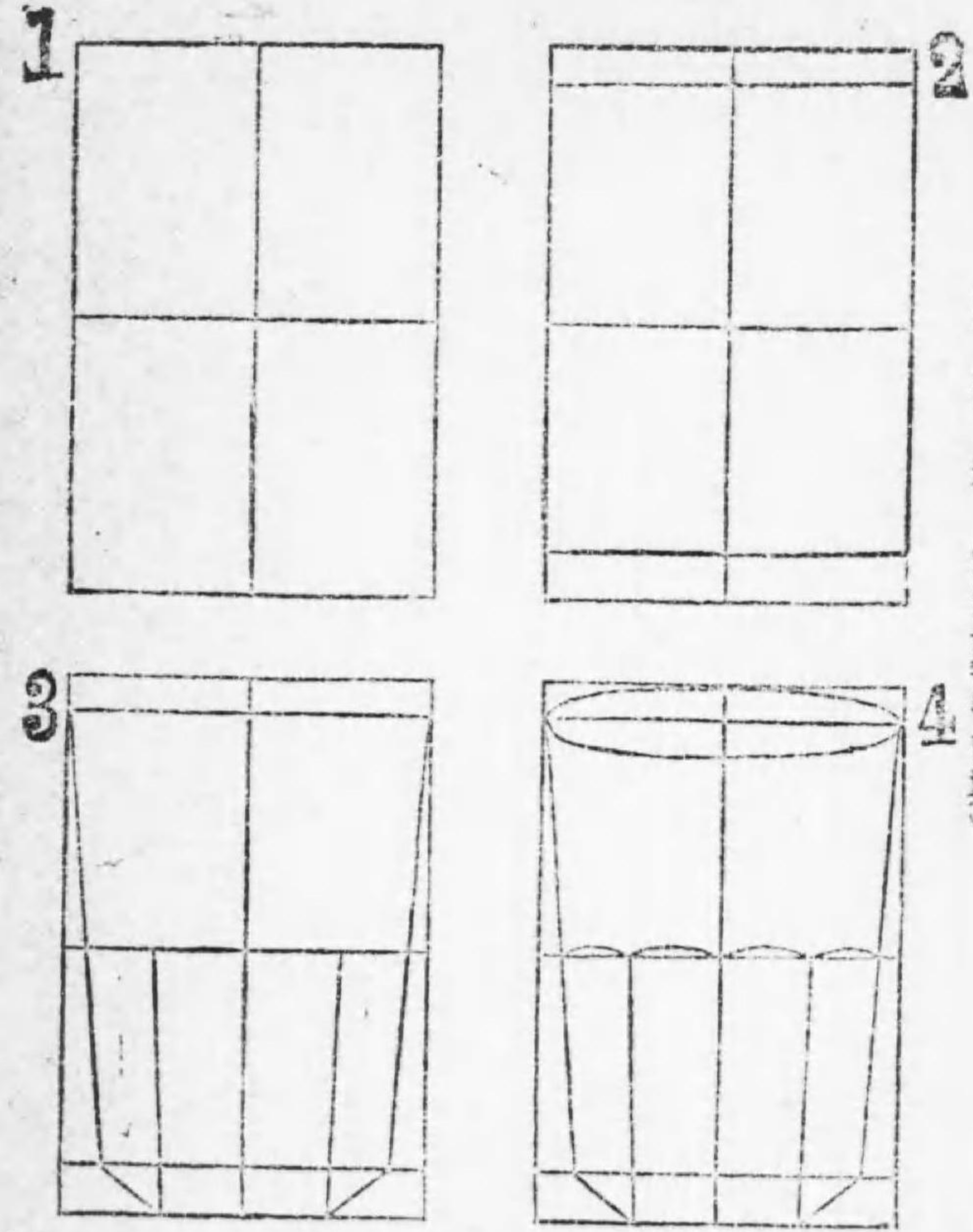
例一の畫筆毛 七



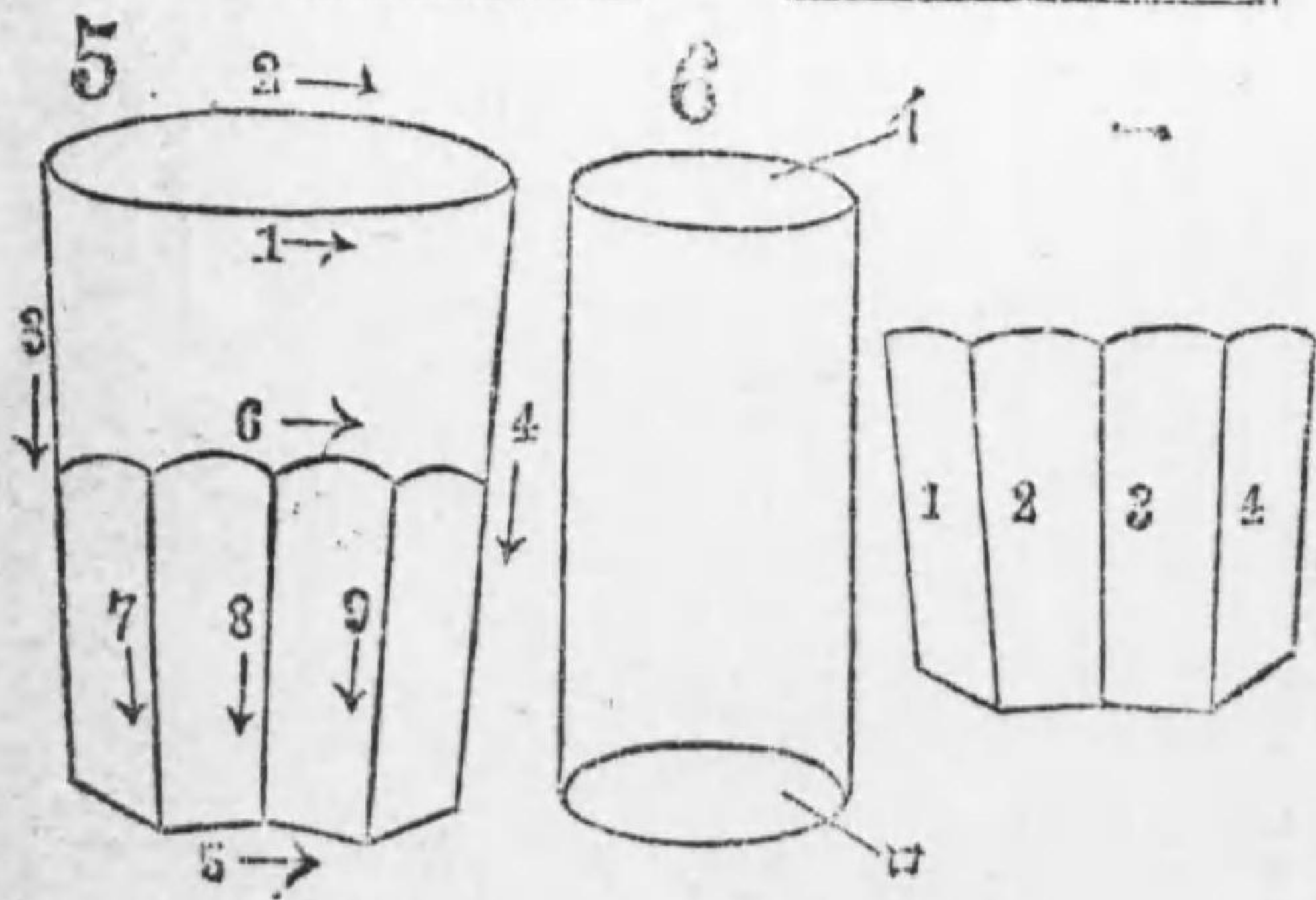
尋常
小學
體操
科
表
解

第五學
年前
期

九 鉛筆畫の一例



圖畫科 (第五學年前期)



體操科

一、胸首及運動

- 上翼の歩状
1. 手を頸に上げ上げ。
 2. 左(右)足を斜前に出せ出せ。
- 胸張りを
1. 胸を張り後にそれそれ。
 2. 體を起せ起せ。
 3. 始め一止め一直れ。
- 脊の屈

第一圖



二、上肢運動

- 直立
- 側伸の伸
1. 臂を左右にのばせのばせ。
 2. 上にのばせのばせ。
 3. 始め一止め一直れ。

三、全身運動

- 下翼の脚状
1. 手を腰に上げ。
 2. 左(右)膝をまげ。
- 前伸の脚
1. 脚を前にのばせ。
 2. 脚をもとへ。
 3. 始め一二一やめ。
 4. 脚を下せ。
 5. なほれ。

第二圖



四、下翼

1. 臂を前に屈げ。
2. 左(右)足を斜前に出せ。
3. 足を元へ。
4. 始め一止め一直れ。

五、腹及腰の運動
伸側歩方状
伸臂

- 體操科 (第五學年前期)
1. 足尖を合はせし。
 2. 左足(右足)を前に出せし。
 3. 臂を左右に上げし。
 4. 足を換へし。
 5. 始めし止めし直れし。

第三圖



六、下肢の運動
伸直立
伸臂

1. 臂を斜めに上へのばせし。
2. 膝をのばせし。
3. 始めし止めし直れし。
4. 膝をのばせし。

大正二年二月十日印刷
大正二年二月十四日發行

定價金拾二錢

不許複製
著作權
所有

發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目
大阪市南區安堂寺橋通三丁目

編纂者 發行所 印刷者 發行者

普通教育研究會
 東京市日本橋區本銀町三丁目二番地 福岡元治郎
 大阪市南區安堂寺橋通三丁目五十七番地 中村寅吉
 東京市小石川區久堅町百〇八番地 萩原勝次郎
 東京市小石川區久堅町百〇八番地 博文館印刷所
 振替貯金口座東京四八二〇番 鍾美堂書店
 振替貯金口座大阪四五七番

5
155

普通教育研究會編纂

尋常小學日本歷史附圖

歴史をよくおぼえるに、大切のことは、時と場所と、その時の有様などを知ることでありませう。此書は右の趣意により歴史上必要の繪畫及地圖をことごとくあつめて美麗なる彩色をほどこし、又物さしにて年代をあらはしてある上に附録としてごく繪に分り易く親切に書いたお話がついてありますから一見して歴史上のことがらを會得する事が出来るよい本であります。

高等小學日本歷史附圖

五學年用全一册
定價各册金四錢

一學年用全一册
定價各册金四錢

東京 鍾美堂書店發行 大阪

終